

長野市松代文化ホールの利用料検討について

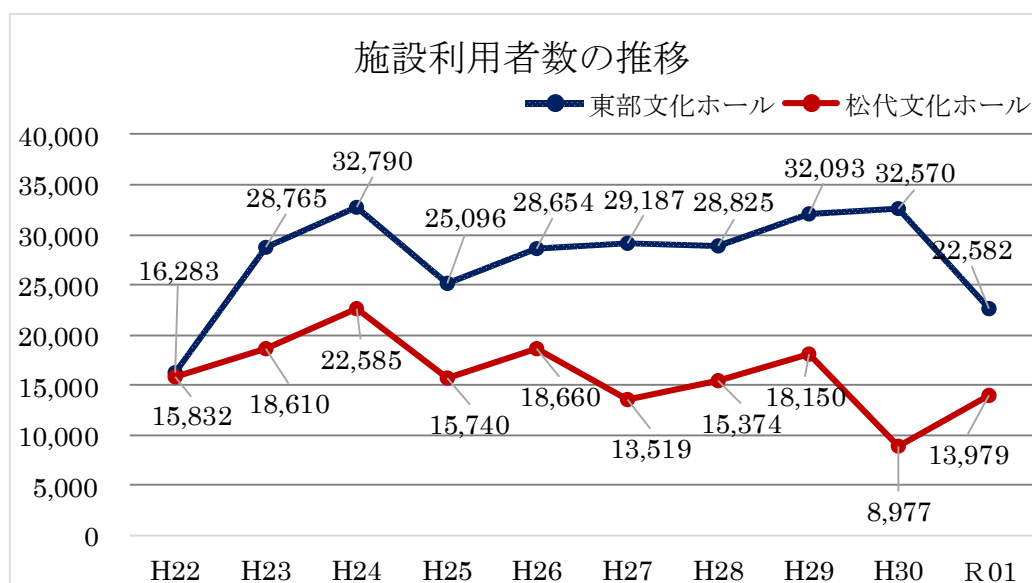
1. 利用料検討の経緯

市の第七次行政改革大綱実施計画においては、長野市松代文化ホールの利用料見直しの検討を取り組み課題に掲げており、文化芸術課では令和 2 年度の調光施設工事の完成に併せて、料金の検討を行うものとしている。

料金の見直しの指針としては、平成 20 年に長野市行政改革推進室が『行政サービスの利用者の負担に関する基準』を示しているが、この基準において利用料の見直しについては、「社会経済情勢の変化や施設の利用状況、サービスの提供に要するコストの推移等を反映し、実態に見合った負担額とする」且つ「利用者の負担増加を最小限に抑制したうえで料金改定を行うもの」とされている。

以上から、施設の現状を考察し、利用料を検討する。

2. 利用の推移

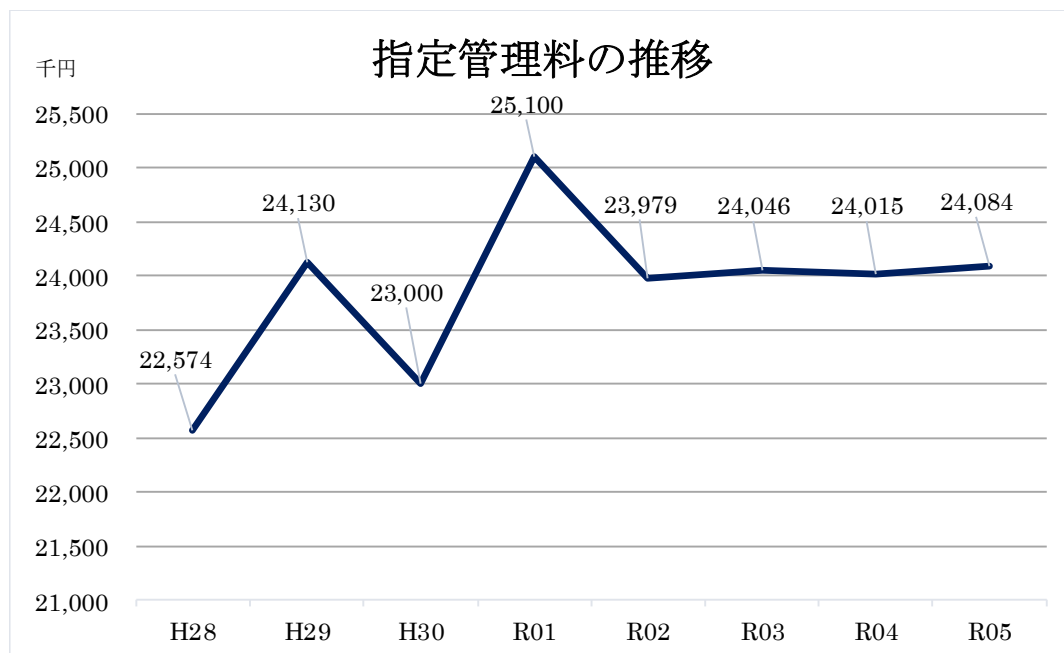


上記表は近年 10 年間の施設利用者数の推移である。（参考として東部文化ホールと比較した）

松代文化ホールについては 15,000 人/年前後でやや減少傾向となっている。

平成 30 年度には特定天井改修工事のため 7 カ月の休館となっているが、再開以降「台風 19 号災害」「新型コロナウイルス感染症」などの影響があり、利用者数が安定し従前の状態に回復するには、いまだ不測の日数を費やすことが想定される。

3. 予算（コスト）の状況



※H28 は篠ノ井ホールとの按分値

松代文化ホールの運営経費は、指定管理料と、市が施工する修繕工事費や消耗品費で構成されている。

まず、予算の大部分を占める指定管理料については、ここ数年 24,000 千円前後で推移しており、今後も現指定管理者の期間満了である令和 5 年度までは、ほぼ同額程度で推移する計画である。

また、松代文化ホールは建築後 31 年を経過していることから、老朽化による施設修繕が急務となっており、当面は一定の修繕工事費の確保が必要な状況である。

以上から、現時点でホールの管理コストを大幅に減少することは困難な状態であると考えられる。

4 類似施設の料金状況（別表参照）

松代文化ホールは、定員 300 名程度の小規模ホールであり、長野市芸術館、ホクト文化ホール、メセナホールなど大規模ホールを併設する施設と比較した場合、安価な料金設定となっている。

しかし、松代文化ホールの利用用途は、音楽練習やピアノ教室などの小規模な発表会が主であり、近傍施設では「東部文化ホール」「勤労者女性会館しなのき」などが同等の施設と考えられ、これらの施設と料金を比較した場合は、ほぼ同等な料金設定である。

5. 考察（まとめ）

松代文化ホールの利用料金は、管理コストを考慮すると安価であるといえる。

しかしながら、地区外からの大規模コンサートを招致できる大型のホールとは異なり、地域住民の文化芸術活動に密着した利用用途の多い松代文化ホールについては、利用者が利用しやすい安価な料金設定を行うことが望ましいものとする。

また、現状においては、新型コロナウイルス感染症の影響が払拭されていない状況であり、利用者数の減少期における利用者負担の増加は、住民の文化芸術活動の衰退にも影響を与えることが考えられる。

更には、現状の料金設定が近傍類似施設と同等であることも考慮すると、当面の間は料金の改正は見送ることが適当であるとする。